

教育プログラム・コースの概要

大学名等	藤田医科大学大学院保健学研究科(R6年再編により医療科学研究科)						
教育プログラム・コース名	がん遺伝カウンセリングコース(正規課程)						
対象職種・分野	看護師、薬剤師、臨床検査技師等						
修業年限(期間)	医療科学専攻修士課程 2年						
養成すべき人材像	臓器横断的にがんの発生機構、病態、治療法、心理状態、社会的支援等を十分に理解した上で、遺伝性腫瘍の患者もしくは可能性がある患者やがん発症の可能性がある(at risk)血縁者への情報提供や心理社会的支援を行い、がんの発症予防にむけて個別対応ができる遺伝カウンセリング専門家を育成する。						
修了要件・履修方法	① 共通科目:10単位 ② 遺伝カウンセリング分野:27単位 ③ がんプロフェッショナルセミナー:15回 ④ がん遺伝子パネル検査実習(エキスパートパネル参加等):15回 以上の計37単位以上を履修し、試験に合格すること。						
履修科目等	生命倫理学2単位、臨床遺伝学2単位、コンサルテーション論2単位、分子遺伝学特論2単位、基礎人類遺伝学2単位、基礎人類遺伝学演習2単位、臨床遺伝学演習2単位、遺伝関連情報・情報検索方法演習1単位、遺伝医療と社会2単位、遺伝医療と倫理演習1単位、遺伝カウンセリング1単位、遺伝カウンセリング演習2単位、遺伝カウンセリング実習6単位、遺伝カウンセリング特別研究10単位、がんプロフェッショナルセミナー15回、がん遺伝子パネル検査実習15回						
がんに関する専門資格との連携	<ul style="list-style-type: none"> 認定遺伝カウンセラー認定養成課程(日本遺伝カウンセリング学会・日本人類遺伝学会)を設置する大学院である。 遺伝性腫瘍専門医(日本遺伝性腫瘍学会)による指導を受けられる。 						
教育内容の特色等(新規性・独創性等)	<ul style="list-style-type: none"> 東海地方で唯一の認定遺伝カウンセラー養成課程(日本遺伝カウンセリング学会と日本人類遺伝学会)を設置する大学院である。従来、全国の養成校では生殖細胞系列の遺伝性疾患を主に教育してきた。本コースでは基本的な遺伝学の知識やカウンセリング技術の習得に加え、臨床腫瘍学や遺伝性腫瘍の知識及び実践の場での教育を強化し、がん医療に習熟した認定遺伝カウンセラーを養成する。 本事業で新たに設置したがんプロフェッショナルセミナーでは、がん研究の最先端トピックを学内外の講師に講演を依頼し、がん領域の最先端知識を学習する。 がん遺伝子パネル検査実習ではがん個別化医療をOJTとして学習する。 						
指導体制	<ul style="list-style-type: none"> 遺伝性腫瘍専門医、臨床遺伝専門医・指導医や認定遺伝カウンセラー指導者を中心に、本事業の担当教員を含め、先制的なゲム医療の活用や、個々の意思決定を尊重する対応力を指導する。 大学敷地内の大学病院は、さまざまな遺伝性腫瘍の発症前診断にも対応する臨床遺伝科やがんゲム医療を行っており、幅広い症例の経験ができる。 大学敷地内に設置されている大学病院での実習は、受講生の移動時間の負担も少なく、がん医療の専門的実践的な教育が受けられる。 						
修了者の進路・キャリアパス	<ul style="list-style-type: none"> 認定遺伝カウンセラーの認定試験に合格後は多職種によるチーム医療で臨床遺伝の問題に取り組むことができる。 従来のコース実績より、本校大学院の受験生や就職は東海地域が多い。今後も同様であることが見込まれるために本地域への定着が期待される。 						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
		2	2	2	2	2	10
受入目標人数設定の考え方・根拠	現在、愛知県内の19のがん診療拠点病院中7施設に常勤の遺伝カウンセラーが勤務している。残り12施設に認定遺伝カウンセラーを最低1人ずつ配置することが当面の目標となる。この目標に対して、過去の大学院志願者数及び入学ニーズ調査を勘案し、毎年度2人程度の受け入れを目標とした。						